

第2回新城市福祉従事者支援施策推進会議録

日 時 令和7年2月20日(木)
午後6時～午後8時15分
場 所 災害対策本部室3

議題

1 福祉従事者支援施策推進会議規約について

- ・資料として規約の新旧対照表をつけている。右側が旧、左側が新となっており、副座長を置くこと、また、推進会議の構成員の任期を2年とすることを追加している。以上のとおり一部改正したいと思うが、協議をお願いしたい。
- ・いつも体調がいいわけではないので、副座長はおいて欲しい。事務局としても、副座長入れて、議案の検討等をしていただきたいと思うので、規約はこのように変えていただきたい。⇒異議なし
- ・施行は令和7年3月1日とする。また、副座長は次回の推進会議で決める。

2 福祉従事者支援施策の評価・検証について

- ・資料は左から、施策、内容、意見・今後の対応等、優先度となっており、前回、皆様からいただいた意見を「意見・今後の対応等」の欄に記入している。また、欄外には施策に関連する国や県の補助事業などを載せている。補助事業等の頭の※がついた番号は施策の番号とリンクしている。

補助人材確保につながる事業を優先すべきと考え、魅力発信の3「中高校生向けの体験型イベント」、事業所支援の5「永年勤続表彰」の優先度を高にしている。今後実施する事業として、みなさまのご意見をお聞かせ願いたい。また、資料にありますように、広報ほのかに「福祉のお仕事」を隔月で掲載してきたが、職種も網羅し1周まわったと思う。今後、どのような形で掲載を続けていくのかもご協議いただきたい。

- ・来年度の予算が決まっている。推進会議の報償費、1回3000円の4回の11名分、それから、定年勤続表彰の記念品代、表彰状を入れる筒、表彰状の用紙、文化会館大会議室の使用料がとってある。
- ・広報に載せる「福祉のお仕事」に関しては、費用負担は発生しない。
- ・これまで職種について掲載してきた。これからはそれぞれ事業所でこういうことをやってると紹介のような内容でもいいのではないか。
- ・原稿の執筆は、担当課によって違う。担当課の職員が書いたり実際に働いてる人に書いていただいたこともあった。介護にはいろんなタイプの施設がある。そこで、職員さんがどういう働きぶりをしているかに焦点を当てればまだ続くのではないか。
- ・西部福祉会館の職員の中には生活支援員がいたり看護師がいたりして、この人はこんなふうに働いているという感じなのか、それとも、福祉施設で働く看護師に焦点を当てたみたいイメージでいくのがいいのか。

・誰かに焦点を当ててではなく、事業所に焦点を当てて、こんな人が利用していて、こんな人たちのためにこんな人たちが働いているといった内容はどうか。

・利用者向けの内容とするのか、事業所の福祉従事者を増やすために若い人向けに情報発信していくのか。

・介護保険の事業所もたくさんある。1ヶ所だけ取り上げるとそこだけに焦点が当たるのではないか。

・掲載は1回に1事業所なのか。それだと何年かかるかだろうと思う。介護保険分野だけでも80以上事業所がある。

・広報を読んだときに、こんな資格を持った人たちがいるという新しい発見があり、人材確保をしていくという部分でいくと、より多くの人に関心を持ってもらい、読み手側がいろいろなことがわかる内容にすればいい。すべての事業所を載せなくてもいい。

・事業所紹介よりも、制度を紹介して、その制度にぶら下がる事業所はこういうところがあるという制度紹介の付随のような紹介ならいいのではないか。

・事業所の営業ツールではなく、あくまでやりがいを持って、こういう仕事をしていますという、そういう仕事がこの町にあるという広報であるべき。

・民生委員児童委員について、一般の市民が分かっているのかと思う。民生委員の仕事についての説明もあってもいいのではないか。

・ここで話をするのは、従事者をどうやって育てるか従事者をどのように大切にするかということを考えているので民生委員のようなボランティア事業というのは違うところにあると思う。あくまでも条例にこだわってやったほうがいいのではないかと思う。民生委員は任期が変わるときなどに広報に載るチャンスは他にある。

・福祉従事者だけではなくボランティアもこの福祉条例には、福祉従事者という定義の中には入っていると知っているので、紹介してもいいと思う。

・制度や施設の紹介に行く前に、ボランティア団体の紹介をしたらどうか。

・NPO法人に新卒の方が入社することも普通に行われている。だから、事業規模とか、報酬に関する事とか、どういう資金をもとに、どういう成果を出しているかなど、仕事の実態を説明する方がいいのではないか。

・従事者になっていこうかなと思う人への情報の1つになるような発信であればボランティアでもいいと思うがただ紹介するだけならちょっと違うのではないかと思う。従事者になろうという人たちを増やしていけるような情報元になっていくといいと思う。

・福祉従事者が働く仕事のイメージができるようなものを、優先順位的に載せていくといいと思う。

・制度と施設の紹介のあとでボランティア団体を紹介していくこととする。

・社会福祉士になるにはどうしたらいいのかなども紹介してもらえるといい。

⇒資格を取りたくて勉強している人は、広報誌より違うもので調べていくと思う。

・合同職員研修のやり方について、各職場内で、研修を独自でやるというようにすれば、どこかに集まってやるということがなくなる。現職教育的な感じで技量が高められたらいいと思う。職場内に優秀な人がいて、研修をしてくれる人がいると思う。

・職場内での研修なら仕事の一環としてとらえてやれると思う。各事業所に講師派遣リストのようなものがあり、講師を派遣して欲しいと思ったときにその講師が行くような、お出かけ講座リストみたい

なものがあるといい。

・3月と4月の上旬で実施する施策を決めないと7月の事務事業に間に合わなくなり予算がつかなくなってしまう。スケジュールを作らないといけないと思う。

・実施する施策は絞り込むことが必要だと思う。介護でも障害でも児童でも望む研修講師がいればいいが。

・中高生向けの体型イベント講座については、VR使って疑似的に高齢者になり、不自由を体験したり、その他車いす体験などを想定している。

・東郷中学が、福祉教育をすごく活発に行っている。子供たちが行きたい講座を3つ選んで受けに行くというふうな形になっている。いいことを先進的にやってるおり、1度、見学したいと思っている。

⇒東郷中学校は何回か行っている。講師としても行っている。この職業はどんな感じなのか、ということでドクターだったり、訪問看護だったり訪問入浴だったり、リハビリだったり18種類ほどあった。会場も体育館だったり、教室だったり、講義だったり、実践だったりいろいろあったが全部地域の講師が、やっていた。

・先生が他の学校の先生の授業を視察に行くことは活発にやっている。一番大事なことは教師力あげて面白い事業するということ。それ以外の文化祭的な行事的なものを見に行くというのはあまりやっていない。学校ごとに伝統がありずっと防災をやっている学校とか、福祉をやっている学校とかがあり、これを工夫しながら踏襲してく形でやっている。

・車椅子の扱い方を覚えるとか、一過性のイベントで終わってしまう。そうではなく、新城のまちづくりのために自分たちが役に立っているというモチベーションが必要で、継続性のある活動にしていかないと、イベントで終わってしまう。例えば認知症養成サポーター講座を中学生ぐらいから受けて、将来自分たちが親になったときに、すでに認知症の人に対する訓練は受けている、というような形にしていくべき。そして認知症カフェでお手伝いをするといった市民参加につなげていかないといけない。

・教育委員会にお願いすれば何とかかなと思うのはやめてほしい。

・社協が主催する福祉ふれあい広場について社協に協力しながらやっていったほうがいいのかと思ひ話し合ってきた。内容については資料「社会福祉協議会「ふれあい広場」と新城市福祉従事者支援施策推進会議「福祉フェス」についての話し合い」のとおり。

・社協職員のモチベーションアップどうしたらできるのか。

⇒社協も縦割りになっていており、協力して何か1つのことをやるということがなくなっている。なので1つの目標に向かって職員が協力し、成し遂げてモチベーションアップを図ろうとしている。

・ボランティア団体は、ボランティアで出役し、社協職員は仕事で出ているが、ボランティアの人たちは本当に喜んで出ているのかととても思った。

・社協内で話をした。今まで福祉ふれあい広場において社協主催で、企画を立てて、プログラムをどこの団体に何をお願いしますという形をお願いしてやってもらっていたが、今後、皆さんからやりたいことを出してもらって、それを社協が調整するという形に変えていきたいと考えている。この推進会議においても実施したいプログラムを企画の1つとして出してもらって、それを社協が中心で会場の割り振りやプログラムの調整などをするイメージでいいのではないかと話がまとまった。

・共済ではなく、同時開催ではなくて、参加団体となるのか。

・今後は福祉ふれあい広場が新城の福祉と触れ合うイベントとして、陰ながら応援していけばいいの

ではないか。

- ・来年度に表彰の予算がついているが、表彰は人が多く集まるところでできるといい。表彰単独でやっても人を集めることが難しいと思っている。

- ・社協に話に行ったのは、フェスと一緒にやったほうがいいと思ったため、推進会議が何らかの形で応援した方がより人が集まるのではないかと思う。社協の話し合いには、来年度メンバーとなった人が行けばいいと思う。

- ・予算は大会議室でとってある。予算の範囲内なら他の部屋でもいい。

- ・ボランティア集会をやったときは、実行委員会が2ヶ月に1回ぐらいあって、その合間に準備委員会ということで、ボランティア団体の実務をやる人に10回くらい集まってもらった。その時の社協は一致団結しており事務局能力がすごかった。何回か開催しているうちに事務局能力も高まっていいものになっていくと思う。準備委員会で協議していけば、同じようにできると思うし、推進会議のメンバーの動員力を福祉広場に合わせれば、講演をやるにしても会場はいっぱいになると思う。

- ・来年の推進会議が4回ということなら、開催の日時を決めてほしい。また、会議を昼間にしてほしい。

- ・4月にやるときには、市長さんにも出席してもらいたい。短時間で良いので、令和6年度の施策の評価検証の報告、今後、何を残すか、継続するか、見送るかを報告する時間を作って欲しい。

- ・4月には令和8年度の具体的な支援施策案がないと、7月までに予算を立てるのは難しいと思う。

- ・令和8年度の委員をどうするのかは、また別で話し合っていかなければいけない。

- ・来年度の委員と座長については3月の推進会議で決める。

- ・第1回の会議の日程は、市長のスケジュールによって決まる。4月から5月の中旬までに開催する。

- ・第1回、第2回でやりたいことをあげて、予算も決めて提案する。

- ・令和8年度の予算は、10月末までにかたまればいい。新規事業については6月末までに提出しなければいけないルールがある。この事業は、新規事業の枠ではないので、通年の予算要望時期でいいと思う。しかし、会議が4回しかないので、早い時期に決めることを決めていかないと、間に合わなくなる。

- ・新城市はお金がないので、国や県からお金をもらって来る努力をする必要がある。予算が取れば実施する内容も変わってくる。

- ・令和4年度にフェスを実施したときには、市町村の独自の魅力のある施策について補助が出るメニューがあり、これを活用した。

3 令和7年度新城市福祉従事者支援施策推進会議の委員及び座長について

※時間の都合で検討できず。次回の推進会議で協議する。

4 その他

- ・毛受氏から説明のあった介拓奨学生プログラムについて、新城版として新城福祉会と鳳寿会と黄柳野高校の教頭先生、校長先生、事務局長さんと話し合いをしている。今年10月後半にある、通常の高校のインターンシップのところではできないかという話を進めている。

・新城市の重層的体制整備事業で、どんな手伝いができるのか、どんな体制整備事業が行われていくのか見えてこないので、法人連絡協議会として市に提案書を提出させていただこうということで作成している。重層的体制整備事業の中で、相談支援包括推進員（コミュニティソーシャルワーカー（CSW））を配置することになっている。在宅介護支援センターは基本的に高齢者を対象としているが、その専門的な分野から抜け出られない。市内 8 ヶ所ある在介に包括推進員を配置するという提案をしていったらどうかというのが法人連絡協議会の意見として取りまとめをさせていただいている。

・推進委員のメンバーに民間の 40 代くらいの若い方が入ってくれるといいと思う。

以上